

〈特集：一橋連携講座案内〉

日本統治期台湾文化史に見る台湾人の足跡 —1930年代の映画・音楽・弁士を読み解く—

講師：原口 直希（東京大学大学院博士課程・DC1／
一橋大学大学院言語社会研究科修士修了）



ニュース映画「Taiwanese marketplace」より。
活気ある市場で、中華式の擦弦楽器を演奏しながら、売り子がペルトを売っている。

会 場 公民館 3階講座室
定 員 30名（申込先着順）
申込先 12月12日（木）朝9時～
電話またはホームページより申込



とき・各回のテーマ

第1回：1月25日（土）昼2時～4時

「日本統治期台湾文化史概説：
協力？抵抗？それとも？」

第2回：2月1日（土）昼2時～4時

「映画主題歌《^{とう か きょうけつ き}桃花泣血記》（1932
年）の新奇性」

第3回：2月15日（土）昼2時～4時

「『^{わんせい}湾生』の見る日本統治期」

ゲスト講師 ^{にいもとひさし}新元久

※湾生：統治下の台湾で生まれ、戦後
引き上げた日本人

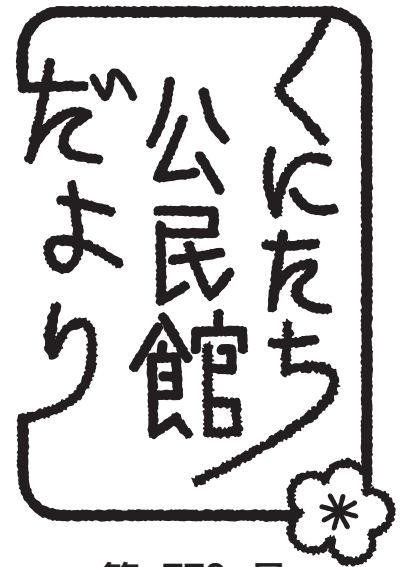
第4回：2月22日（土）昼2時～4時

「台湾人弁士 ^{せんてんき}詹天馬に見る両義性」

第5回：3月1日（土）昼2時～4時

「映画『^{ぎじんごほう}義人呉鳳』（1932年）のプロ
パガンダ作用」

1895（明治28）年から1945（昭和20）年のおよそ50年間、台湾は日本の植民地でした。統治下で育まれた文化とはどのようなものだったのでしょうか？ 植民地である以上、差別は存在し、台湾人が日本人に不満を抱くことは当然です。では文化においても、その不満が見て取れるのでしょうか？ 他方で元総統の李登輝さんなど、当時を生きた日本語世代の台湾人は日本文化の愛好者とされています。それでは文化にも「親日」が見て取れるのでしょうか？ この講座では映画・音楽・弁士といった1930年代の台湾における大衆文化を、当時の映画やレコードなどから読み解いていきます。さらに第3回では統治下の台湾で14歳までを過ごした、新元久さんのお話を伺います。文化のなかに見られる台湾人の足跡を、皆さんと共に考えたいと思います。



第 778 号

2024年12月5日

（令和6年）

「くにたち公民館だより」

デジタルブック▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

「一橋連携講座」とは

一橋大学大学院言語社会研究科の教員にコーディネーターとしてご協力いただき、最新の研究内容について、グループワークなどを交えながら、参加者と相互に学び合う連続講座です。

一橋大学大学院言語社会
研究科との連携について

2017年（平成29）年3月末、

公民館と一橋大学大学院言語社会研究科は、社会連携に関する覚書を取り交わしました。公民館では、言語社会研究科で積み上げられてきた豊かな「人文文学」の研究成果と、市民の社会教育・生涯学習との相互の交流・発展を目指して、「一橋連携講座」や現役の大学院生が講師となる「院生講座」など、様々な連携事業を行っています。

これまでの連携事業
実績はホームページ
に掲載しています。



2017年3月31日 調印式

第34期 公民館運営審議会

活動のまとめ

(任期 2022年11月1日から2024年10月31日まで)

国立市公民館運営審議会(以下、公運審)は、公民館の民主的運営を図るため(国立市公民館条例第5条)公民館開設時から設置されています。月1回定例会を開催しており、どなたでも傍聴できます。毎月の定例会報告は「公民館だより」に掲載しています。第34期の活動終了に伴い、この2年間の活動をまとめて報告します。

■役割分担と研修

社会教育に係る様々な団体や機関から推薦された第34期公運審委員15名は、委員長、副委員長2名、公民館だより編集研究委員3名、社会教育学習会の検討委員3名、東京都公民館連絡協議会(以下、都公連)委員部会委員、社会教育委員などの役割を分担し、定例会以外にも社会教育に係る活動を活発に行いました。

第2回、第3回定例会にて、学識委員2名から公民館に関する講義を、第4回から第6回定例会では、委員長、副委員長それぞれが調査した国立市公民館の歩みと特色から研修を行いました。

■市長・教育長への要望と意見交換
公民館の充実に向けた要望をまとめ、市長・教育長と率直に意見を交換することは、国立市公運審が民主的運営を続けるための大切な機会、手段の一つです。

第34期公運審はコロナ禍の影響が残る中で始まりました。こうした中で、第33期答申「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」に対する市長・教育長の受け止めやその後の対応状況について23年8月に意見交換を行いました。

また、23年10月から公民館職員人事への要望について議論を始めました。24年1月第15回定例会で、①市民の学習権が保障される職員体制の拡充、②公民館長選任の際の国立市公民館処務規則第3条の遵守・内示前に公運審の意見を聴くことの要望を骨子とする要望書をまとめました。市長・教育長に提出し書面による回答を求めるとともに、公運審の要望について、教育委員、社会教育委員にも周知していただきました。

いただいた回答を念頭に4月人

事異動の結果について第18回定例会で議論し、同月市長・教育長と面談を行い、意見交換しました。

今期は、私たちの要望と市・教育委員会の方針の差異を確認しつつ、要望書には職員のキャリアパスなど長期的視点に立った文言を盛り込み、具体的人事についても議論できるよう、面談は24年4月人事の直後に行いました。ただし、面談日の決定が遅れたため、出席委員が少数になったことは反省点です。

■社会教育学習会の開催

第1回学習会(23年3月開催)
「コロナ禍の公民館と私たち」のテーマで開催し、第33期答申内容とその10の提言にそって、コロナ禍を経て見えてきた公民館の未来について、パネリストも参加者も思いを出し合いました。

第2回社会教育学習会(23年8月開催)は「公民館のハテナ?」を解き明かす素朴なギモンを聴いてみよう」のテーマで開催し、青山鉄兵委員(文教大学准教授)が「水先案内人」(講師)の役割を担いました。前半の講義では、

第34期公運審 活動記録

22・11・8

【第1回定例会】委嘱状交付、教育長挨拶。各委員、事務局担当者自己紹介。正副委員長以外の担当委員選出。

12・13

【第2回定例会】正副委員長の選出。館長より12月人事報告。委員研修「公民館運営審議会をめぐる歴史と課題」。市長・教育長への要望書についてスケジュール等確認。

23・1・10

【第3回定例会】館長より新規採用職員紹介。定例会議事録の市HP公表の是非、市長・教育長への要望書について継続審議。委員研修「公民館における学習支援を捉える視点」。

2・4

都公連第59回研究大会開催(於 西東京市柳沢公民館 他)。

2・14

【第4回定例会】都公連第59回研究大会参加者の感想共有、定例会議事録公表方法について協議。

「国立市公民館の職員体制の充実と公民館長人事に関する要望書」を市長・教育長に提出、コロナ禍における学習権、閉館時の思いや団体活動等について意見交換。

3・14

【第5回定例会】事務局提案「国立市における公民館職員の専門性や基本姿勢について」公民館職員として大切にしたいことについて意見交換。委員研修「国立市公民館の歩みと特色について」その1。

3・18

社会教育学習会の開催「コロナ禍の公民館と私たち」みんなで話そう!これからの公民館」。

4・11

【第6回定例会】館長より4月人事異動報告。新職員自己紹介。社会教育学習会参加者の感想共有。委員研修「国立市公民館の歩みと特色について」その2。事務局より「国立市における公民館職員の専門性や基本姿勢について」修正案提示、意見交換。

5・9

【第7回定例会】学校教育関係新委員の委嘱。委員研修「国立市公民館の歩みと特色について」その3。一連の委員研修の感想共有。

6・13

【第8回定例会】館長より「公民館の運営や事業に『市民の声』を生かしていくための方法や工夫について」諮問提出、その理由・背景等について質疑。

7・11

【第9回定例会】市長・教育長への要望書について、第33期答申を中心とした意見交換を行う方向で調整。館長より22年度公民館主催事業の報告。諮問に関して質疑。

8・8

【第10回定例会】答申作成のため、第30期ならびに第31期委員長よりヒアリング。館長より23年度公民館主催事業予定説明。

8・9

市長・教育長と「第33期答申について」意見交換。

9・12

社会教育学習会の開催「公民館のハテナを解き明かす」。

10・10

【第11回定例会】社会教育学習会参加者の感想共有。市長・教育長との意見交換について参加者より報告。館長諮問の「市民の声」について議論。

【第12回定例会】人事要望書案について意見交換。諮問の理由・背景を館長より再度説明。諮問への意見・アイデアを分類整理、「市民」について意見交換。

社会教育とは？公民館とは？を基本に立ち戻り学習し、国立市公民館の歴史や、特色などを確認しました。これを踏まえ、後半は、参加者が6つのグループに分かれ、話し合ったハテナ、ギモンを各グループから発表しました。このハテナへ講師が応答するなかで、様々な視点から既成概念に捉われない議論ができた学習会となりました。また、学習会に先行して行われた公民館職員の案内による夜の公民館ツアーでは、公民館の新たな側面や可能性を垣間見ることができました。



みんなで「ハテナ」を出し合いました

■諮問「公民館の運営や事業に『市民の声』を活かしていくための方法や工夫について」

23年6月に公民館長より表記の諮問が出されました。公民館は「市民の声」を聴くことを基本としているものの、さらに多様な意見を

取り入れる必要があり、公運審では公民館未利用者を含めた様々な市民の意見をどのように収集し、運営に反映させるかを議論しました。その中で、既存の取り組みである講座アンケートやふり返る会について調査・検討するアンケートと、既存の取り組みでは聴くことの難しい市民の声を聴く方法を検討・試行するインタビュー班に分かれ、定例会後の班ミーティングやメール、オンラインチャットでのやりとりを通じて検討を進め、定例会で各班からの報告に基づく質疑、意見交換を行い、全体での課題共有に努めました。

アンケート班からは、講座アンケートの具体的な改善案や、シルバー学習室や女性講座などの長期継続講座についてふり返る会を実施し、受講者の声を聴く提案など、具体的な検討結果が示されました。インタビュー班からは、12名の市民に各90分ほどのインタビューを試行し、対象者の半生や学びを深掘りしながら、生きづらさの実態や学習との距離などの課題、あるいは従来の公民館での取り組みとは異なる多様な豊かな学習活動の姿など、多くの新たな気づきを得られたことが報告されました。他方、インタビューとその他の読み取りは、市民の声を聴く有効な手段ではあるものの、多くの労力を要することが課題であることも指摘されました。

両班の検討結果を取りまとめ、「市民の声」を活かす方法や工夫に関する提案を行った答申を24年10月、公民館長に提出しました。答申の詳細は、次号で紹介します。

■新たな取り組みと残された課題
今期公運審では、委員の意見を踏まえて定例会議事録の電子化を段階的に進めました。議事録の訂正を定例会前日までに委員が事務局に電子メールで回答することとし、委員への議事録配布は原則電子メールで行い、委員の希望者と傍聴者へのみ紙の議事録を机上配布する対応に変更しました。議事録に係る職員業務負担と郵送費が軽減され、審議時間の確保にも寄与しました。公運審の定例会議事録は、過去5年分が公民館図書室にて公開され、誰でも閲覧することができま

10・14	都公運委員会研修開催（於 国立市公民館）。
11・14	「第13回定例会」 今後、議事録はメール送付を基本とすることで合意。人事要望書について協議。諮問について、公民館の利用に生じる課題など協議。
12・12	「第14回定例会」 人事要望書の提出先について協議。諮問について答申作成の検討委員会を3つ設置することで合意。
24・1・9	「第15回定例会」 市長・教育長への人事要望書を議決。答申作成検討班を2つ（アンケート班、インタビュー班）に再編。市長・教育長に「国立市公民館の職員体制の充実と公民館長人事に関する要望書」を提出。
1・12	都公運研究大会開催（於 国分寺市立本多公民館 他）。
2・3	「第16回定例会」 都公運研究大会参加者の感想共有。館長より22年度決算報告。答申のインタビュー班は3月末までにインタビュー追加実施を決定。
2・13	「第17回定例会」 答申のインタビュー班よりその手順と実施状況について報告。アンケート班より過去の調査等について説明。答申作成スケジュール案提示。
3・12	「第18回定例会」 学校教育関係新委員の委嘱。館長より4月人事異動報告。インタビュー班よりインタビューの実施状況報告。アンケート班はテーマ別に担当を決めて検討を進めるとの報告。
4・9	市長・教育長と人事要望の回答について意見交換。
4・19	「第19回定例会」 答申のインタビュー班より11名のインタビューが終了し、データを吟味していくとの報告。アンケート班から項目別に文章化するとの報告。
5・14	「第20回定例会」 館長より24年度公民館事業計画と予算について報告。答申の各班より進捗状況・検討内容の報告。章立て・執筆分担など検討。
6・11	「第21回定例会」 答申の各班より原稿案報告、構成や内容について意見交換。
7・9	「第22回定例会」 答申原稿案について検討。第34期公運審活動のまとめについて構成、執筆担当、スケジュールなど検討。
8・20	「第23回定例会」 第34期公運審活動のまとめ原稿案を協議。答申原稿について最終案に向けて協議。
9・10	「第24回定例会」 答申について修正箇所を確認後、館長に提出。各委員・職員より第34期公運審活動のふり返り。
10・8	都公運委員会研修開催（於 西東京市柳沢公民館）。
10・26	※毎回の定例会の最初に前回議事録修正、公民館だより編集研究委員会、都公運、社会教育委員会の会の担当委員から報告が行われている。

第34期公民館運営審議会委員

委員長…木島香織、副委員長…大野広子、隈井裕之

委員…青山鉄兵、荒井壽恵、大久保芽衣（23年7月まで）、大貫志香（24年4月から）、北村明男、清原周来（23年3月まで）、幸島裕子、佐藤雄一、鈴木淳（23年5月から24年3月まで）、長澤成次、西尾万樹、野口泰寛、望月淳夫、森本彩里紗（23年8月から）、矢野勝巳

〈共生社会のマナビ〉
暮らしのてしごとワークショップ
—はじめての木工と籐のカゴ編み—

講師 武藤 健 (木作家／DIY 工房クミタテ)
藤田 秋 (カゴ作家／DIY 工房クミタテ)

コーディネーター 榎野岳志
(DIY 工房クミタテ／一橋大学研究補助員)

温かみのある籐のカゴ、木製のカトラリー。くにたちゆかりの桜の木など、自然の素材に触れ仲間と語らいながら、自分だけの一品をつくりましょう。

今回は、木工に1回、籐のカゴ編みに1回で、それぞれ1つずつ作品をつくります。講師にお招きするのは、ふだんは会社員や地域活動などをされながら、休日は市内のシェア工房で作家として活躍しているお二人です。

周りのひとと語らうもよし、講師にものづくりを始めたきっかけを聴くもよし。「てしごと」をしながら、ゆったりとしたひと時を過ごしてみませんか。

と き ① 1月26日……木工 (スプーンづくり)

② 2月16日……カゴづくり

すべて日曜日 朝10～12時半

ところ ① シェア工房クミタテ
(富士見台第一団地むっさ21内)

② 公民館 3階講座室

定 員 9名(2回参加できる方、申込先着順)

材料費 2,000円(初回にご持参ください)

申込先 12月13日(金)朝9時～

電話またはホームページより申込



〈図書室のつどい〉
子どもたちの「体験格差」
～連鎖する「もうひとつの貧困」の実態～

お 話 今井 悠介
(公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事)

聞き手 青山 鉄兵 (文教大学)

習い事や家族旅行は「贅沢」なのでしょうか？ この社会で連鎖する貧困によって、子どもたちから何が奪われているのでしょうか？

『体験格差』著者の今井さんが代表を務めるチャンス・フォー・チルドレンは、子どもたちが放課後や休日にどのように過ごしているのか、全国調査を実施しました。その結果、日本社会には、さまざまなスポーツや文化的な活動、休日の旅行や楽しいアクティビティなど、子どもの成長に大きな影響を与える多種多様な「体験」を、「したいと思えば自由にできる(させてもらえる)子どもたち」と、「したいと思ってもできない(させてもらえない)子どもたち」がいることを明らかにしました。

今回は、この「体験格差」の問題を一緒に考えます。

〈今井さんの本〉『体験格差』(講談社現代新書)

と き 1月9日(木)夜7時～9時

ところ 公民館 1階市民交流ロビー

定 員 30名 ※申込先着順

申込先 12月10日(火)朝9時～

電話またはホームページより申込



国立天文台望遠鏡キットで冬の星空を観測しよう！



講師 縣 秀彦 (国立天文台 天文情報センター 准教授)

国立天文台望遠鏡キットを組立て、自分だけの望遠鏡で公民館の屋上から冬の星空を観測してみませんか？

国立天文台の縣さんのガイドのもと、国立天文台望遠鏡キットの組立てに挑戦します。使い方等の説明もありますので、持ち帰った自分だけの望遠鏡で、これからいつでも星空を観測していただけます(*キット代有料)。

望遠鏡ができあがったら、火星が最接近する1月12日の冬の星空、くにたちの夜空の向こう～宇宙～を覗きに行きましょう(星が見えない場合は館内で縣さんに宇宙のお話をさせていただきます)。

と き 1月12日(日)夕4時～夜7時

ところ 公民館 地下ホール(望遠鏡キット組立)
屋上(星空観測)

*屋上への昇降は階段を使用します(エレベーター設備はありません)。
*暖かい服装でお越しください。

定 員 25名(申込先着順)※最小催行人数10名

申込先 12月11日(水)朝9時～
電話またはホームページで申込

持ち物 三脚(ビデオ用三脚推奨)

材料費 1家族または1人

※小学生以下のお子さんが参加の場合は、保護者が一緒に参加してください。

●望遠鏡キット代 4,600円

●望遠鏡キット・三脚セット代
(三脚の用意がない場合) 9,000円



＜材料費は事前徴収です＞

12月22日(日)までに、公民館2階事務室までお支払いください(受付時間：月曜日以外の朝9時～夕5時)。



←国立天文台
望遠鏡キット



監督 チャールズ・ウォルターズ
 製作 アーサー・フリード
 音楽 アーヴィング・バーリン
 出演 フレッド・アステア、ジュディ・ガーランド、
 ピーター・ローフォード、アン・ミラー ほか

全篇を彩るアーヴィング・バーリンの名曲の数々、フレッド・アステアとジュディ・ガーランドという2大ミュージカル・スターの共演も話題となった、華やかで楽しさあられるミュージカル映画の名作。

1930年代に活躍し、当時49歳だったアステアは全盛期を過ぎたといわれ引退も考えていたが、この映画の大ヒットで見事カムバック。その後、円熟味を増したダンスと歌で1950年代のハリウッド・ミュージカル映画全盛時代を支えることになる。

と き 12月22日(日) 昼2時～(開場昼1時30分)

ところ 公民館 地下ホール

定 員 70名(申込先着順)

申込先 12月10日(火) 朝9時～
 電話またはホームページより申込



*事前申し込み制となっています。

必ず電話、窓口、ホームページのいずれかの方法にて事前にお申し込みください。

〈図書室のつどい〉 不登校クエスト

小・中学校9年間、1日も登校しなかった私が、高校からピアノを始めて藝大に行って作曲家になった話。

お 話 内田 拓海(作曲家)

内田さんは、6歳の時、「小学校には行かないほうがいい」と確信。小・中学校9年間で不登校で、ホームスクーラーとして過ごしました。毎日没頭していたロールプレイングゲームで流れるゲーム音楽が「音楽」への入り口となり、15歳の時、「作曲家になろう」と決意。経験がほぼゼロの状態からピアノと作曲の勉強を始め、努力と苦勞の末、東京藝術大学音楽学部作曲科へ進学。現在は、藝大大学院に在籍しながら作曲家として活躍されています。

学ぶこともコミュニケーションも大好きだった内田さんが、なぜ学校に行かなかったのか。その間どのように過ごして来たのか。不登校宣言を尊重してくれたご両親について。藝大合格までの道のり。現在どのような活動をしているかお話を伺います。「学校に行く」だけがすべてではなく、自ら取捨選択し、自分の生きる道を見つけ出す方法や、自分で学ぶ力の育て方を知る機会にしたいと思います。内田さん作曲の音楽も聴きます。

〈内田さんの本、CD〉

表題作(飛鳥新社)、『Prayer』CD全11曲収録

と き 1月25日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 70名(申込先着順)

申込先 12月17日(火) 朝9時～

電話またはホームページより申込



〈野鳥観察フィールドワーク〉

くにたちバードウォッチング入門

木々が葉を落とし視界がひらける冬は、バードウォッチングに最適な季節です。くにたちの特徴的な地形であるハケ沿いには、豊かな樹々や湧き水などがあり、たくさんの種類の野鳥たちが集まっています。



城山で野鳥をさがして(昨年度の様子)

運が良ければ、「飛ぶ宝石」カワセミに出会えるかも……? 初心者や親子での参加も歓迎です。この冬、くにたちでバードウォッチングをはじめてみましょう。

第1回目はくにたちで見られる野鳥のお話をうかがいます。第2回目は城山からママ下湧水を歩き、主に里山の鳥をたずねます。第3回目は、多摩川周辺の主に冬を越す渡り鳥などの水鳥をたずねます。

講 師 佐伯 元行(国立あおいとり保育園 園長)
 中島 徹也(くにたち野鳥観察会)

第1回 12月22日(日) 朝10時～12時

【座学】公民館 3階集会室

第2回 1月12日(日) 朝10時～12時頃

【観察コース】城山～ハケ周辺

第3回 2月2日(日) 朝10時～12時頃

【観察コース】多摩川周辺

※雨天の場合は、公民館でスライドを見ながら野鳥のお話をうかがいます。

集 合 第2回 くにたち郷土文化館前
 第3回 南区公会堂前

持ち物 筆記用具、双眼鏡等

定 員 15名(申込先着順)

申込先 12月11日(水) 朝9時～電話またはホームページより申込。



地域で日本語支援をしたい人のための「日本語教育入門」

地域で日本語を学んでいる外国にルーツのある方々に、日本語を教えてみたいと考えている方のための講座です。

日本語を教える際に必要なことを、理論・実践の両方から学んでいきます。(全8回)

*講座終了後に、日本語サポートボランティアの活動内容について紹介があります。

◆総論篇：1月7日(火)

～地域の日本語ボランティアの役割とは～

講師：林川 玲子

(東京日本語ボランティア・ネットワーク)

◆体験篇：1月11日(土)※

～日本語学習者の気持ちになってみよう～

講師：ムラドリ アイダン

(一橋大学大学院言語社会研究科修了生)

◆理論篇：1月14日、21日、28日(火)

～日本語教育のための文法事項や文型について～

講師：庵 功雄いおり (一橋大学・日本語教育)

◆実践篇：2月4日、18日、25日(火)

～地域日本語教室の現状理解と実践演習～

講師：志村 ゆかり (一橋大学・日本語教育)



公民館でのKUNIFA日本語サポートによる日本語支援の様子

とき 火曜日、夜6時～8時

ところ 公民館 3階講座室(1/14、2/18は集会室)

※1月11日(土)は昼2時～4時に3階講座室で実施

定員 24名(申込先着順)

申込先 市内在住・在学・在勤かつ全回出席できる方

12月11日(水)朝9時～

上記以外の方

12月18日(水)朝9時～

電話で公民館へ

費用 テキスト代実費 ※2,200円程度

(『にほんごこれだけ! 1・2』ココ出版)

第61回東京都公民館研究大会 開催案内

公民館・生涯学習センター等の可能性を再発見しよう!

～東京の公民館の“おととい(過去)”と“しあさって(未来)”を考える～

東京都の公民館の関係者が一同に集う研究大会が国立市で開催されます。2024(令和6)年度は、1949年の社会教育法制定から75年、1974年に東京都教育庁が発行した「新しい公民館像をめざして」(いわゆる「三多摩テーゼ」)から50年の節目の年でもあります。

戦後の公民館のあゆみのなかで、多摩地域(三多摩)の公民館には、都市社会教育のあり方を構想し、「新しい公民館像」の問題提起を行いながら、独自の実践を蓄積してきた経過があります。こうした三多摩の公民館の歴史を踏まえ、いま私たち公民館に集う関係者は、なにを大事にしていけるのか。この研究大会では、多摩地域の公民館のあゆみをふり振り返りながら、公民館をめぐる現状と期待を共有し、東京の公民館の未来を共に考えたいと思います。

なお、今大会は参加者全員で同じ内容を共有する全体会(基調講演+シンポジウム+ディスカッション)を中心に開催します。可能な限り、参加者の声を進行に反映する工夫を行います。ぜひお気軽にご参加ください。

■基調講演 テーマ「三多摩テーゼの歴史的意義と今後の展望」

講演者：佐藤 一子かつこ (東京大学名誉教授)

■シンポジウム シンポジスト：

西山 佳孝 (公民館のしあさって・プロジェクト)
田中 貴子 (小平市 移動式子ども食堂カモミール)
針山 和佳菜 (国立市公民館 社会教育主事)
佐藤 一子 (東京大学名誉教授)

■コーディネーター：

井口 啓太郎 (国立市公民館 館長補佐)

とき 2月8日(土)

昼1時15分～夕4時半

ところ くにたち市民芸術小ホール

参加費 1,000円(当日支払い)

申込先 1月17日(金)夕5時までにホームページより申込(問合せは公民館まで)



昨年度の東京都公民館研究大会の様子

※どなたでも参加できます。
詳細は国立市公民館等で配布する開催要項をご覧ください。

※国立市公民館は東京都公民館連絡協議会に加盟しています。

ゴルフの経験をバードゴルフに！
PW一本で18Hを廻ると運動不足の解消やアイアン練習となりゴルフの腕前も上がります。手軽にゴルフを楽しめるバードゴルフを体験しよう。国立TBG協会
日時 毎週(木)昼12時、(金)朝9時
場所 谷保第三公園グラウンド
連絡先 坂井090(249) 9175



ひろば
(8ページにもあります)

水泳「とびうお」会員募集
水泳は全身を使う運動です。日頃の運動不足やストレス解消にいい汗を流しませんか。公認コーチが丁寧に指導します。温水プールで水泳を楽しみましょう。
日時 毎週火曜日 昼12時～2時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 横田042(571) 6688

マインドフルネスとたこ焼き
近年様々な企業で取り入れられているマインドフルネス瞑想。今回、たこ焼き名人を招き美味しかったたこ焼きを味わいながら様々な瞑想を体験します。
日時 12月8日(日) タ5時半～
場所 公民館 3階実習室
連絡先 酒井080(588) 3095

スポーツウエルネス吹矢始めよう
ヨガ、太極拳、ダーツ等の利点を活かした誕生したスポーツ吹矢。心肺機能を高め、ゲーム感覚で仲間と一緒に楽しもう！吹矢協会
日時 随時(週に2～3回開催)
場所 総合体育館・公民館・北アラザ・福祉会館
連絡先 坂井090(249) 9175

くにたちバロックアンサンブル
アマチュア弦楽合奏 バロックの好きなチェロ奏者募集 次の本番は令和7年5月11日(日)三鷹市芸術文化センター風のホール夜7時より
日時 月2回 日曜午前
場所 国立・西国分寺周辺で
連絡先 北垣042(572) 5641

〈くにたちブッククラブ〉
—たしかにそこにいた「わたし」のこと—
ゆうしょう
滝口悠生『高架線』(講談社文庫)

講師 深津 謙一郎 (共立女子大学・日本近代文学)
とき 12月12日(木) 夜7時～9時
※今回のみ実施時間が変わります。
ところ 公民館 講座室 ※昨年度から変更。
定員 30名(申込先着順)
申込先 電話またはホームページより申込



—2月分(ロビー3月分)の会場調整会のお知らせ—

12月28日(土)朝10時～実施します

申込書のポスト投入期間	12月7日(土)～19日(木)
公用使用の貼り出し	12月11日(水) (11日以降の休館日を除く最初の平日)
予約の重なりのある団体の掲示開始日(国立市HPにも掲載)	12月21日(土) ▶重なり状況



※会場調整会当日は朝10時までに受付してください。

第35期国立市公民館運営審議会発足

公民館運営審議会は、市民の立場から公民館事業などについて調査・審議します。11月から新たな委員でスタートしました。

(任期：令和6年11月1日から令和8年10月31日まで)

	氏名	所属・役職(推薦団体・機関)
1	大貫 志香	国立市立小・中学校副校長
	野口 泰寛	シニアカレッジ3
	幸島 裕子	障害をこえてともに自立する会
	森本 彩里紗	青年室利用者連絡会
	北村 明男	公民館利用者連絡会
	矢野 勝巳	文学講座連絡会
2	木島 香織	なかなかいいね！プロジェクト「なかなかいい会」
	木山 直子	くにたち男女平等参画ステーション
	佐藤 雄一	コトナハウス
	三谷 桂子	KUNIFA 日本語サポート
	荒井 壽恵	くにたちの図書館を考える会
	朝山 尚樹	国立商工会青年部
3	望月 淳夫	民生委員・児童委員
4	長澤 成次	千葉大学名誉教授
	田中 雅文	日本女子大学名誉教授

(注) 1：学校教育関係者 2：社会教育関係者
3：家庭教育関係者 4：学識経験者

公民館運営審議会報告

11月12日(火) 第35期第1回定例会を開催。委員15名、教育長、館長、職員2名が出席。傍聴4名。
○はじめに教育長から各委員に委嘱状を交付(任期は令和8年10月31日までの2年間)。教育長挨拶。
○各委員・事務局担当職員の自己紹介。
○委員長、副委員長等の選出について話し合い。委員長に矢野勝巳さん、副委員長に田中雅文さん・幸島裕子さんの2名が互選された。
○各委員会担当の選出も併せて行われ、公民館だより編集研究委員会には、幸島裕子さん、望月淳夫さん

ん、森本彩里紗さん。社会教育学習会担当委員には、木島香織さん、佐藤雄一さん、三谷桂子さん。東京都公民館連絡協議会委員部会委員には野口泰弘さんが選出された。
○その他確認事項として、今後の審議会のスケジュール、「第33期国立市公民館運営審議会におけるウェブ会議内規」を第35期も継続することについて確認。
○議事録の公開の方法について審議。次回継続して検討予定。
○次回は学識委員の長澤成次さんを講師に研修を実施予定。
次回、12月10日(火) 夜7時15分から講座室。傍聴歓迎。
(公民館)

今月の公民館 (12月～1月前半)

- 12月7日(土) 昼 阪神淡路大震災から30年
『「救援・災害ボランティア」の役割と経験ー『ボランティア元年』となった大震災をふり返るー』
- 8日(日) 朝 地域防災講座
「公民館 de 防災～日頃の『備え』を一緒に確認しませんか～」
- 12日(木) 夜 ブッククラブ 滝口悠生『高架線』
シネボックス
- 22日(日) 昼 CINEVOX『イースター・バラード』
- 1月7日(火) 夜～ 日本語教育入門
- 9日(木) 夜 図書室のつどい『体験格差』
- 12日(日) 夕 国立天文台望遠鏡キット組立て冬の星空を観測しよう！
- 19日(日) 朝～ 共生社会のマナビ
「暮らしのてしごとワークショップ
ーはじめての籐のカゴ編みと木工ー」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。
公民館 ☎042(572) 5141



▲講座等の案内

ひろば

(7ページにもあります)



勇気ある人達が時代を作るVOL.2

国立市の各福祉事業所から作品を展示します。14日(土)には12時半より張り子ワークショップを実施します。参加希望の方は連絡先へ

日時 12月11日(水)～18日(水)

場所 公民館 1階市民交流ロビー

連絡先 シルバーハイツ谷保

デイ担当 宮崎042(574) 5214

国立あひる、クリスマスをお祝い

ア・カベラ女声三部のコーラスグループです。世界平和を祈りつつ、ご自身の一年間の頑張りをいっしょに歌いませんか？

日時 12月13日(金) 昼3時～4時

場所 旧国立駅舎 広間

連絡先 宮坂042(576) 3872

ネット・部落差別を考える会

部落差別を語り未来へつなげる連続講座。『ふるさとへの思いー私がカミングアウトする理由』上映、出演する宮瀧さんのお話。資料代300円。懇親会あり。要予約。

日時 12月15日(日) 昼3時半開場

場所 木乃久兵衛キノキユッヘ

連絡先 池田042(573) 8777

国立混声合唱団ときわ

公開練習開催。心も身体もリフレッシュ。「あじさい」「レクイエム」「時代」他クリスマスソングも一緒に歌いませんか。

日時 12月15日(日) 昼3時開演

場所 スペースコウヨウ6階

連絡先 深町090(8592) 2444

marchi@ozio.jp

ボーイスカウト クリスマス会

ボーイスカウトのクリスマス会を一緒に楽しみたい！対象：年長～小5男女。(保護者同伴。費用：500円。12/14(土)迄に申込み)

日時 12月21日(土)夜6時半～8時

場所 福祉会館

連絡先 大島bigislandjyco0925@gmail.com

公民館 年末年始のお知らせ

12月29日(日)～1月3日(金)

この期間は、公民館全体がお休みになります。公民館図書室は、

12月28日(土)、1月4日(土)は夕5時に閉室します。

土曜日ですが、夜8時まで開室しませんのでご注意ください。

また、2月分の会場調整会は、

12月28日(土) 朝10時から行います。(詳細は7ページをご覧ください)

「サークル訪問398」 くにたちギタークラブ 「かなで」

メヌエット、白い恋人たち……。取材日は、市民文化祭の演奏会に向けた練習が行われ、様々な名曲がクラシックギターの彩りある音色で奏でられていた。

今年で結成7年目を迎える、くにたちギタークラブ「かなで」は、様々なジャンルの曲をクラシックギターでアンサンブル中心に演奏して楽しむサークルで、現在10名が所属している。国立市内外の数々のイベントやコンサートに参加し、演奏依頼にも対応している。

結成当初から現在まで、指導者は置かず活動してきた。「みんなで話し合ってやっていくという助け合いの精神がある」と、メンバーは言う。この日も、上手く音が揃わない箇所があれば、メンバー同士で話し合い、拍子の取り方や息の合わせ方を確認していた。だんだんと演奏が揃っていく中で、メンバーの表情や奏でる音色からその喜びや楽しさがじんわりと伝わってくるように感じた。

アンサンブルの良いところとは何か。それは、個人の力量に合わせてパートを分担することができ、一人では挑戦しにくい難しい曲にも取り組むことができることだという。それぞれクラ



クラシックギターと一緒に合奏を楽しんでみませんか？

シックギターの経験年数や習熟度は異なるが、みんな一緒に練習することで、一人でやるよりも上達できたり、少しのミスも楽しんで演奏することができる。

「ギターは小さなオーケストラ」という素敵な表現を教えていた。工夫の仕方次第で多様な音色を奏でるクラシックギターの奥深い魅力、まさにその表現そのものだ。仲間と楽しく会話をすることができ、和やかな空間が「かなで」にはあった。現在、メンバー募集中。あなたのお好きな名曲と一緒に演奏してみませんか？

日時 毎週日曜日 午後1時～4時

場所 東福祉館、公民館など

連絡先 石井090(8509) 6705

〈文・写真 森本 彩里紗〉